

産業構造審議会・容器包装リサイクルワーキンググループ  
中央環境審議会・容器包装の3R推進に関する小委員会  
第5回合同審議会説明資料

# 容器包装(ペットボトル)リサイクル 制度見直しへの要望

2013年12月5日

廃PETボトル再商品化協議会

# 廃PETボトル再商品化協議会概要

- ❧ 正式名称：廃PETボトル再商品化協議会  
(廃PET協と略す)
- ❧ 加入事業者数：35社  
\*35社は、指定法人に登録された再生処理事業者の約6割
- ❧ 設立：2006年3月
- ❧ 目的：
  - ❧ 会員相互の連絡協調のもとに、廃PETボトルの適切な回収と再生処理を通して再資源化の更なる促進を図り、循環型社会の構築に貢献すること。
- ❧ 活動指針：
  - ❧ 「容器包装リサイクルシステム」の維持・向上に向けた諸活動を、業界全体として行っていく。
  - ❧ 共同研究を推進し、業界全体の持続的な発展を目指す。

# 廃PET協の活動成果 (1)

## 指定法人ルート回収量拡大に向けた市民への働きかけ

PETボトルリサイクルシンポジウムの開催  
 <後援：経済産業省・環境省・農林水産省>

第1回テーマ：使用済みPETボトルの海外流出による国内リサイクルへの影響。

第2回テーマ：市民・市町村・事業者の協力によるリサイクルはどうなるのか

### 開催意義

当協議会と、日本容器包装リサイクル協会並びにPETボトルリサイクル推進協議会との共同主催で実現したシンポジウム。ボトルを製造して利用する側と使用済みのボトルをリサイクルする側、そして容器包装リサイクルのとりまとめ役が一体となり回収量拡大に向けた取組みを実施。

## 第2回 PETボトルリサイクルシンポジウム

PROGRAM	
第1部 14:00 ~ 15:30	<b>基調講演</b>
	1. 岡田 俊郎 (経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長)
情報提供	1. 江東区 (環境清掃部 清掃リサイクル課長 鈴木 亨)
	2. 東京都 (環境局 廃棄物対策部 資源循環推進課 課長補佐 古澤 康夫)
	3. NPO 法人 (持続可能な社会をつくる元気ネット 専務局長 鬼沢 良子)
	4. 帝人ファイバー株式会社 (生活製品グループ グループ長 村山 隆)
	5. PETボトルリサイクル推進協議会 (小松 郁夫)
第2部 15:30 ~ 17:00	<b>パネルディスカッション</b>
	●ファシリテーター 藤口 祐一 (独立行政法人 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長)
●パネラー	1. 岡田 俊郎 (経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長)
	2. 古澤 康夫 (東京都 環境局 廃棄物対策部 資源循環推進課 課長補佐)
	3. 鈴木 亨 (江東区 環境清掃部 清掃リサイクル課長)
	4. 鬼沢 良子 (NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 専務局長)
	5. 村山 隆 (帝人ファイバー株式会社 生活製品グループ グループ長)
	6. 小松 郁夫 (PET ボトルリサイクル推進協議会)
	7. 藤子木 公輝 (廃PET ボトル再商品化協議会 会長)

## PETボトルリサイクルシンポジウム

PROGRAM		7月9日(金)
第1部 14:30 ~ 15:30	<b>基調講演</b>	上田 康治 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長)
	<b>情報提供</b>	岡田 真見子 (埼玉エコ・リサイクル連絡会) 横浜市、川口市
現状説明	<b>現状説明</b>	堀口 誠 (公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 理事)
	<b>パネルディスカッション</b>	
第2部 15:30 ~ 17:00	●ファシリテーター	藤口 祐一 (独立行政法人 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長)
	●パネラー	上田 康治 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長) 横浜市、さいたま市、川口市 岡田 真見子 (埼玉エコ・リサイクル連絡会) NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 堀口 誠 (公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 理事)

第3部 7月17日(土) PET ボトルリサイクル工場見学会

事務局 執行理事

## 廃PET協の活動成果 (2)

- ❧ 指定法人への円滑な引渡を目的とした市町村への働きかけ

- ❧ 市町村訪問

- ❧ 訪問した市町村の数 : 計750市町村

- ❧ 「日本容器包装リサイクル協会」・「PETボトルリサイクル推進協議会」と一緒に訪問 : 34市町村

- ❧ 廃PET協の個別訪問 : 716市町村

- ❧ 全市町村長宛に「指定法人への円滑な引き渡し」のお願い文書を提出

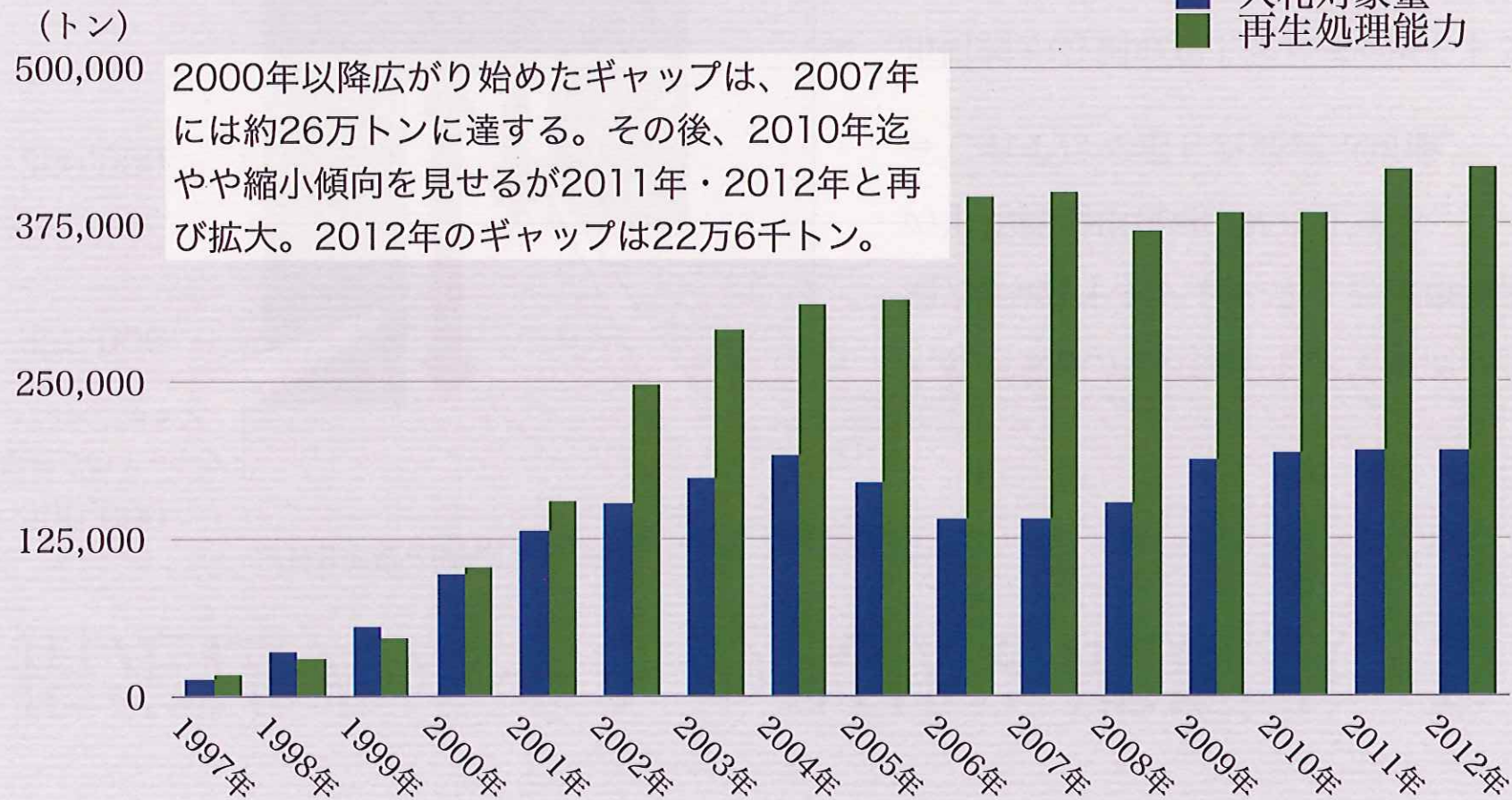
- ❧ 実施の時期 : 平成18年7月・12月, 平成19年7月

- ❧ 実施内容 : 約2,650の市区町村及び一部事務組合宛の文書発送。

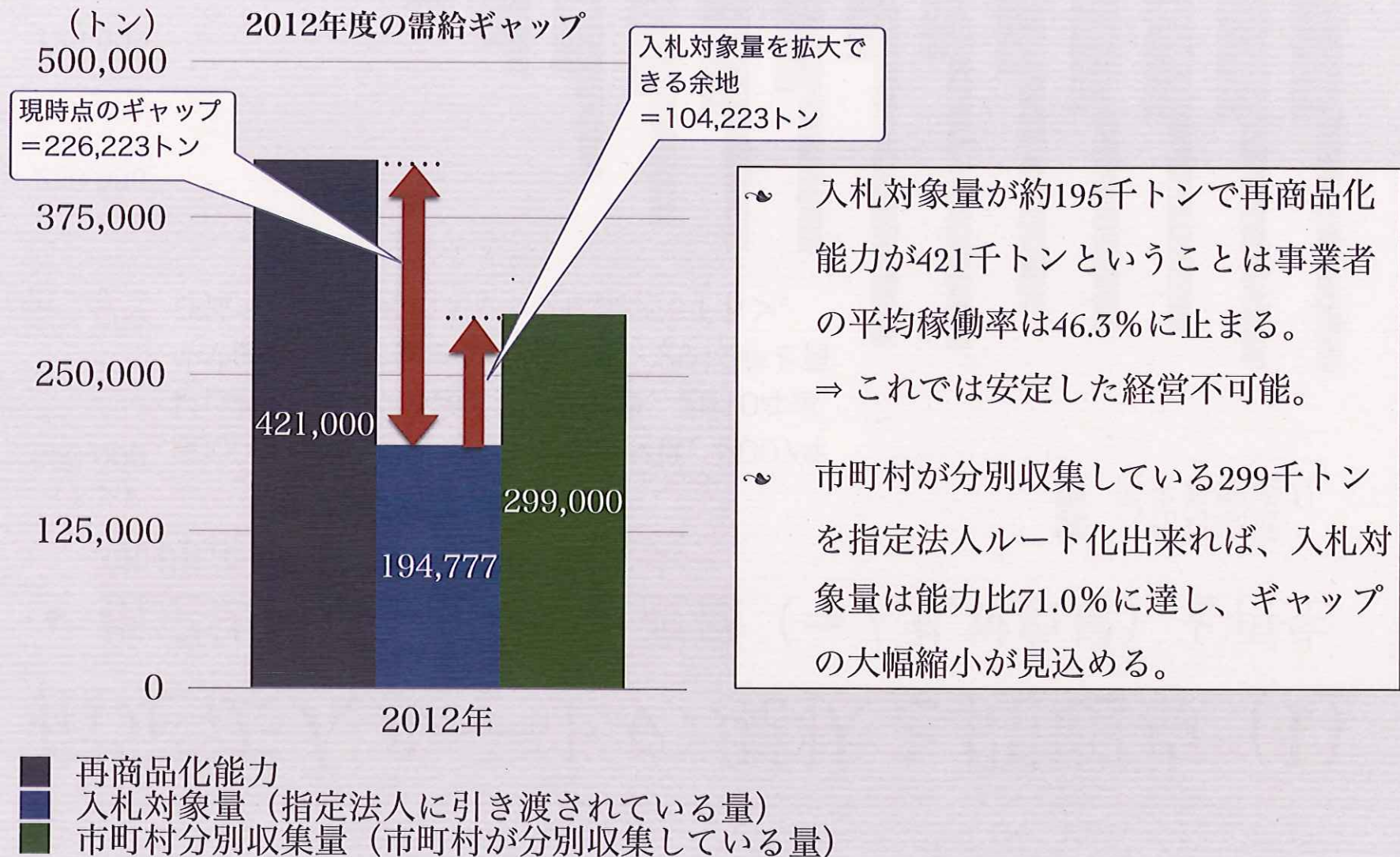
⇒廃PET協設立時（平成18年）140,013トンであった指定法人への引渡量が昨年度実績194,777トンにまで拡大。（プラス54,764トン）

# 指定法人ルート の現状と問題点 (1)

指定法人ルートへの引渡量 (=入札対象量) と再生処理能力のギャップ拡大

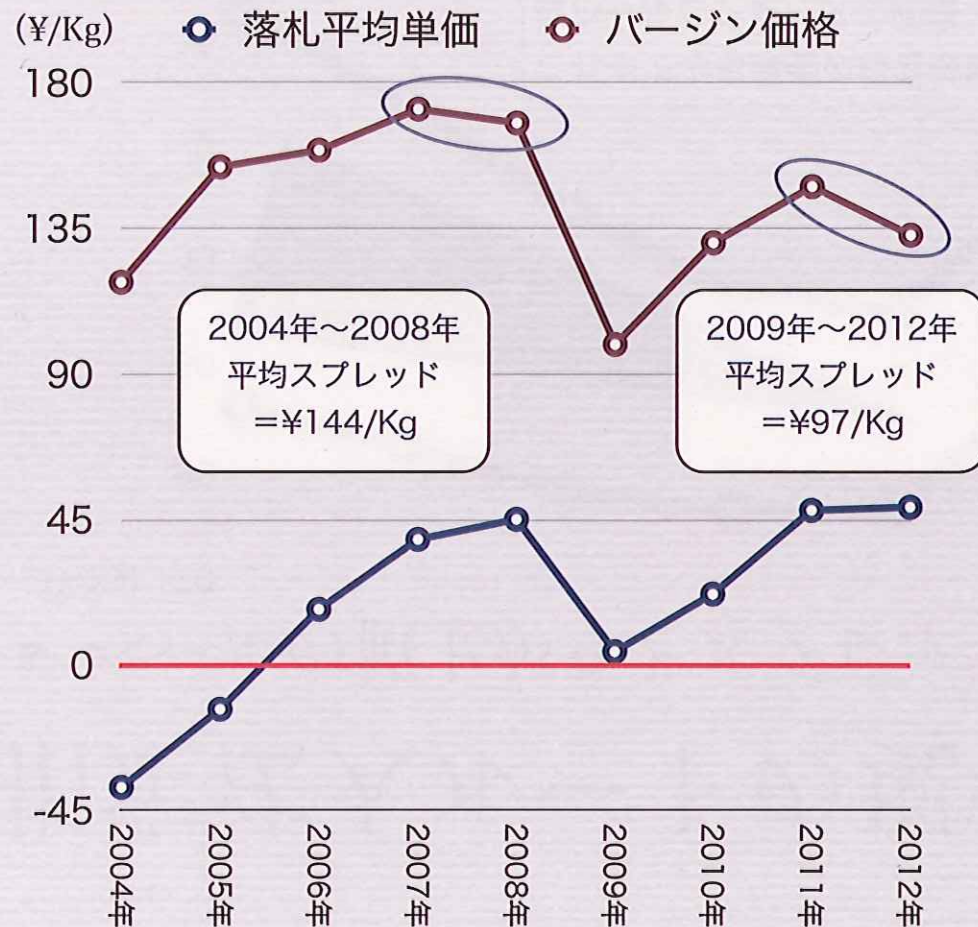


# 指定法人ルート の現状と問題点 (1)



# 指定法人ルートでの現状と問題点 (2)

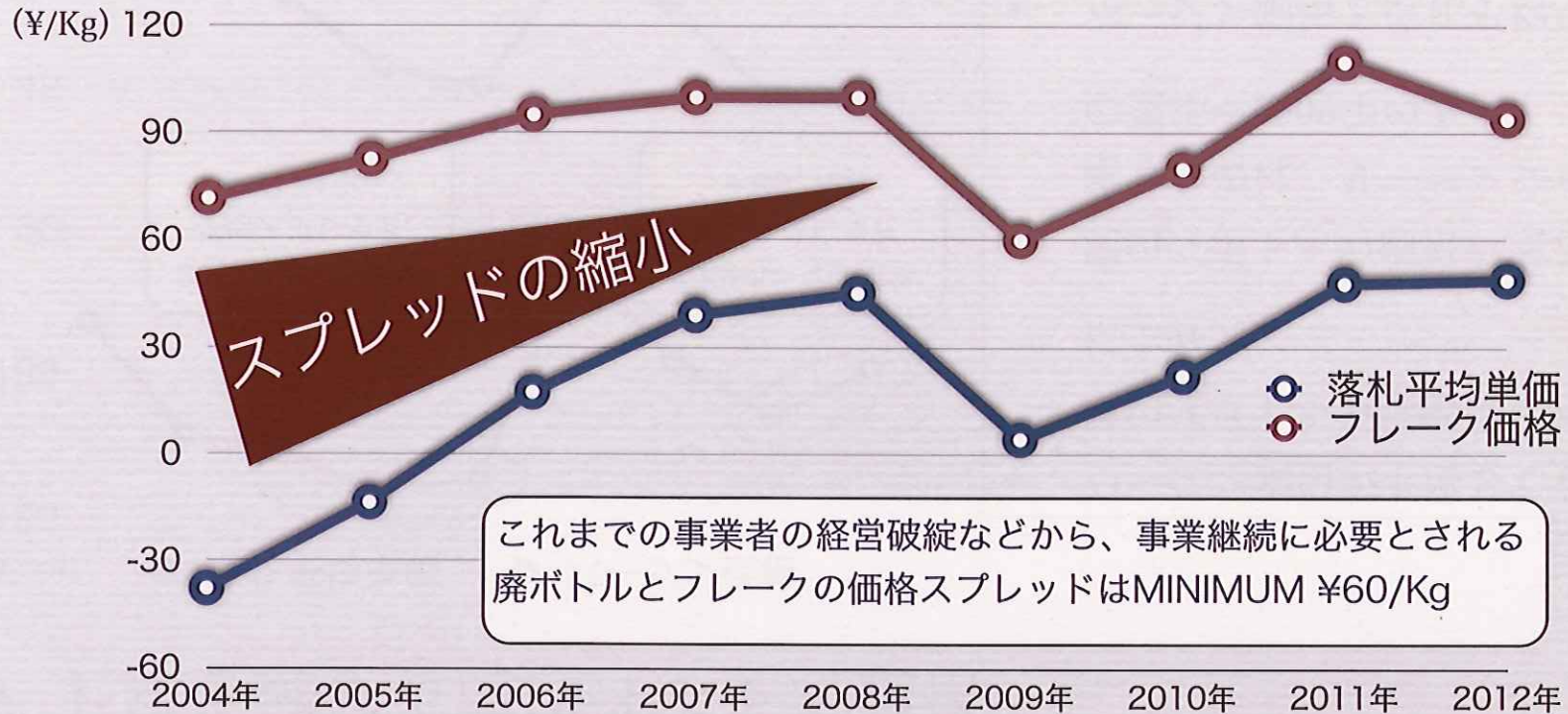
## 上昇を続ける廃PETボトル価格



- バージン価格が下落しても廃PETボトルの価格は入札の度に上昇。
- 廃PETボトルの価格が顕著に下落したのは、リーマンショックの翌年=2009年のみ。
- バージン価格と落札平均単価のスプレッドは2008年を境に急激に縮小。

# 指定法人ルートでの現状と問題点 (3)

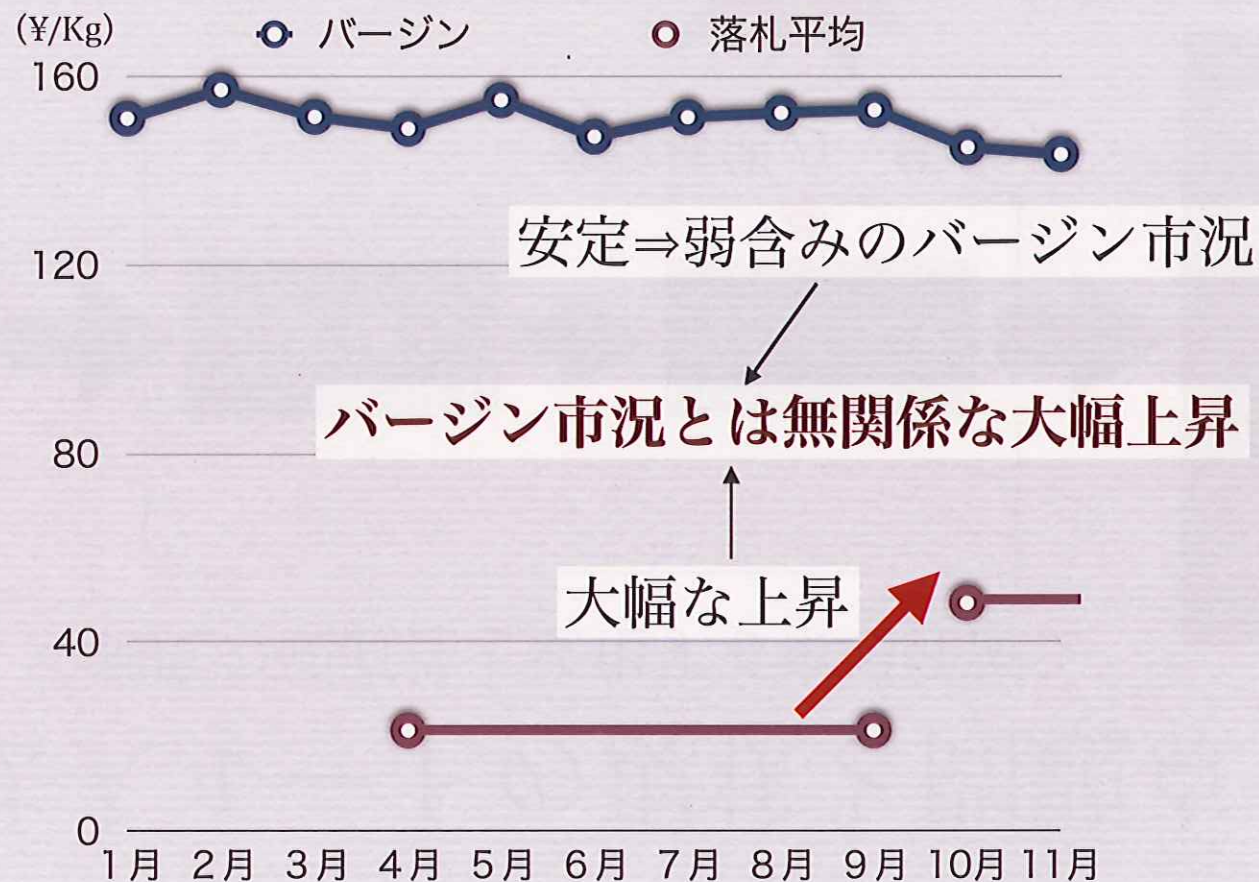
## ベールの値上がりとスプレッドの縮小



	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
スプレッド	109.3	96.1	77.7	61.1	54.9	55.8	58	62.1	45.1

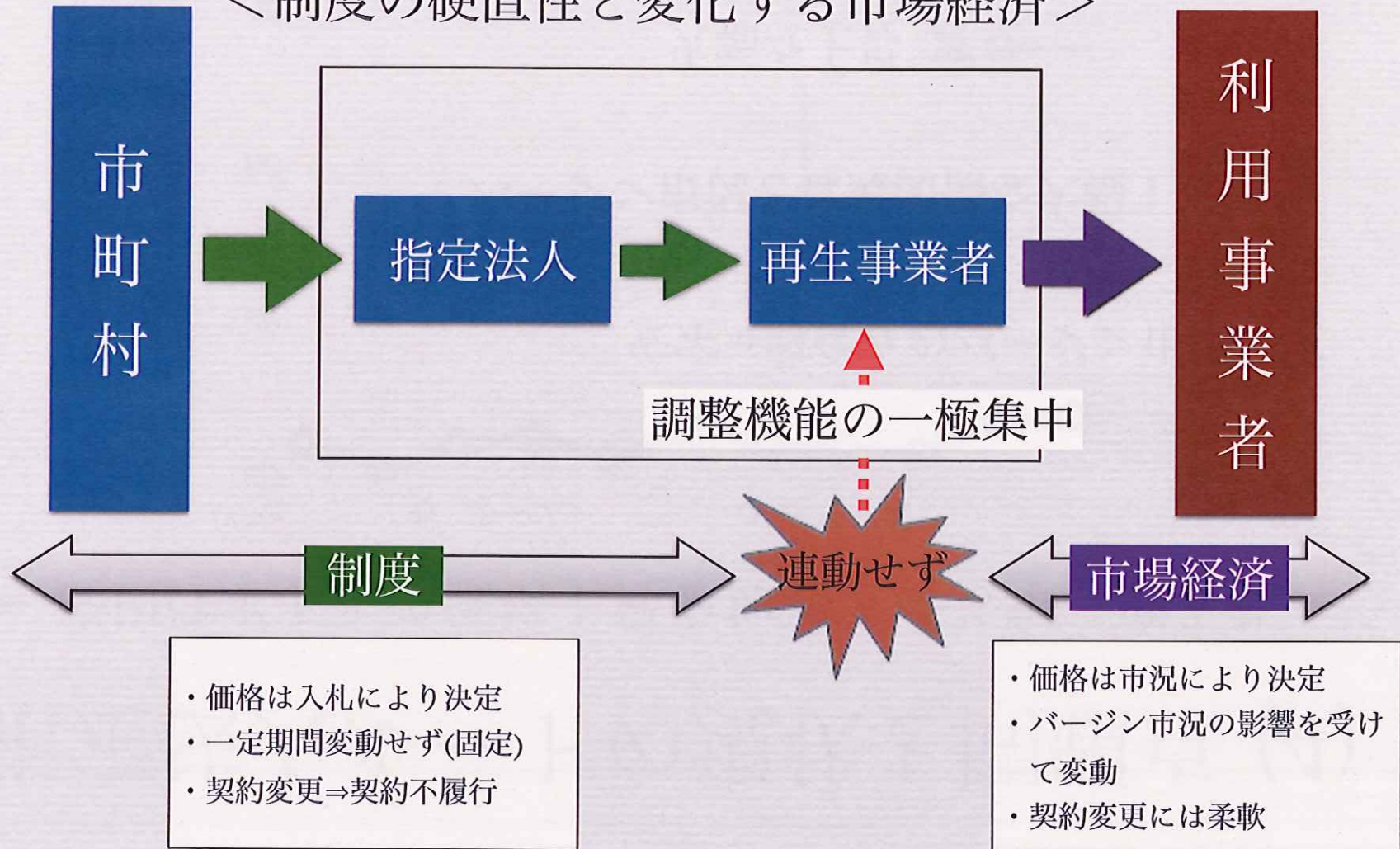
# 指定法人ルートでの現状と問題点 (4)

❖ 廃PETボトルの価格上昇を加速させる年二度入札



# 指定法人ルート の 現状 と 問題点

＜制度の硬直性と変化する市場経済＞



# 採算悪化への対応

(二つの方向性)

## 再生事業者の採算悪化

### 高付加価値化

- 洗淨の徹底・異物の完全除去等によるフレーク高品質化の追求。
- ペレット化を含めた物性改善・制御。
- 他素材との組み合わせによる改質。等

コストが掛かりイバラの道

### コストの徹底削減

- コストを最低限に抑えたフレーク製造
- フレーク品質の低下から価格も相対的に安くなるが「削減額 > 価格下落幅」により採算改善を狙う。

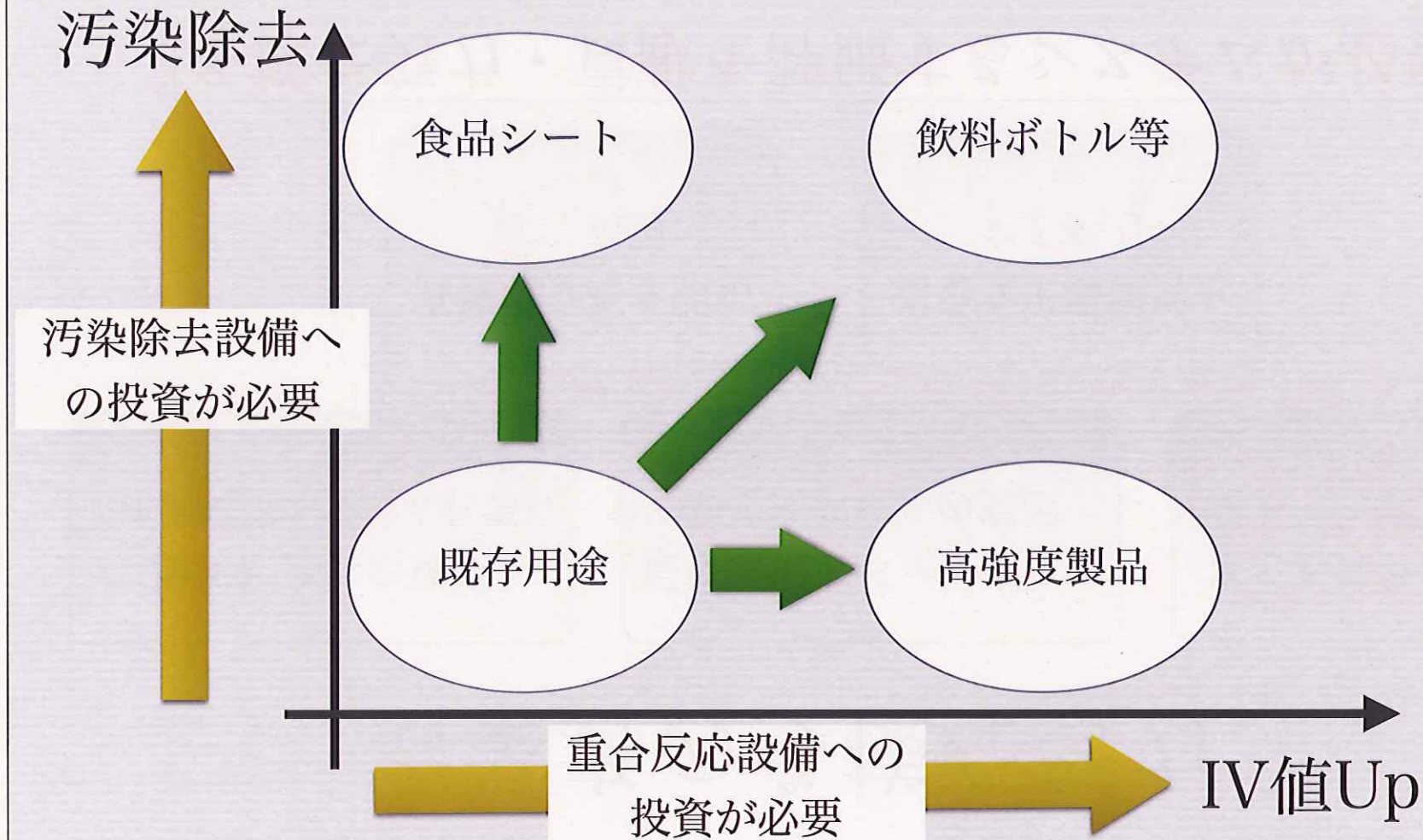
即効性有り！

# 需要構造が変化する兆し

- \* 現在需要の約半分を占める繊維用途は中国等とのコスト競争を避けて**高品質分野へ生産品目をシフト**。異物が少なく色目の良いものを求める傾向が強まっている。
- \* 拡大が見込まれる食品シート用途は**安全・衛生性への要求が高く**事業者の技術向上が求められている。
- \* 拡大分野は飲料ボトル用途や食品用シート等、**バージンPET樹脂同等の品質を要求**する分野。

コスト削減の方向性では対応出来ない流れ

# 高機能分野を開拓する努力



# 事業者の多様な努力

地域社会への貢献  
(市民見学の受け入れ等)

長年に亘るペットボトル  
リサイクルへの貢献

コスト競争力  
向上への努力

高機能分野を開拓  
する努力

安全な工場運営を  
する努力

## 多様な努力・貢献を評価するシステムが必要

- 価格競争入札では、需給のアンバランスを背景とした過当競争が継続する。
- コスト削減の方向では日本の将来の需要を支えられない。
- これまでペットボトルリサイクルを支えてきた事業者への評価を期待。

# 国内資源循環拡大を促すポイント

❖ 消費者＝市民に分かりやすいリサイクルであること。

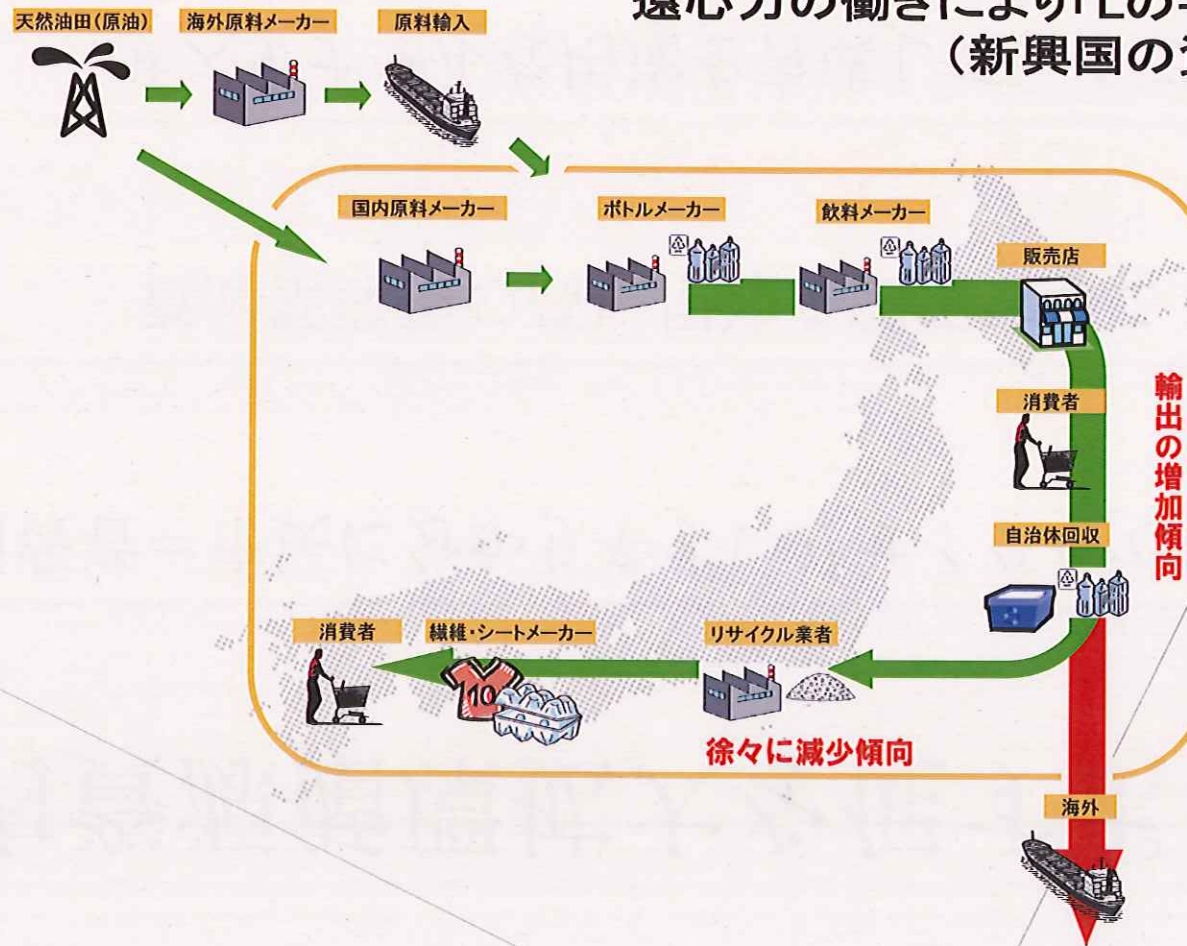
❖ 資源循環性の高い用途を開拓すること。

❖ サステナブルな用途を育成していくこと。

❖ 利用事業者の量的安定使用を促す仕組みを作ること。

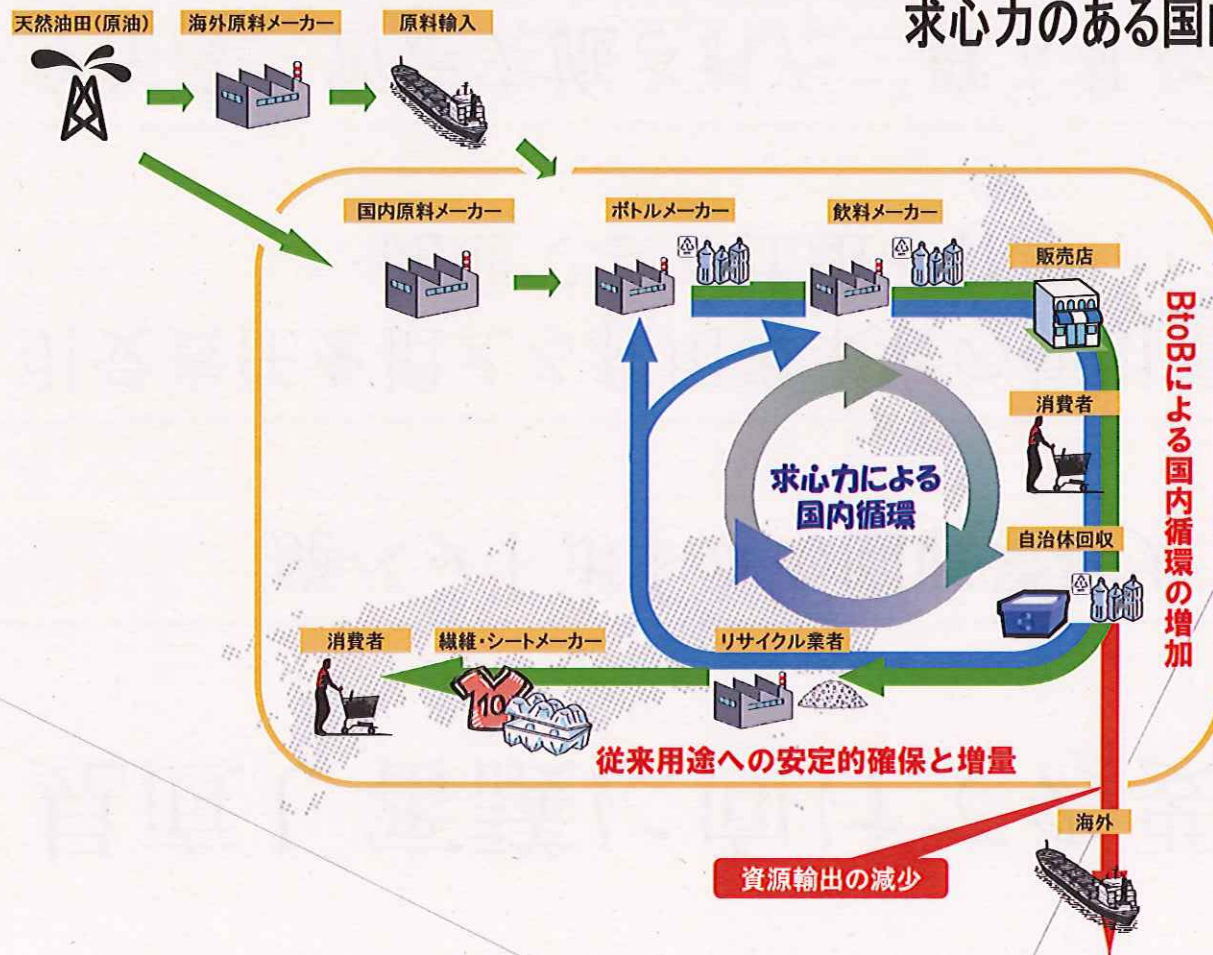
# 従来型リサイクルの構造

制度による「Uの字」リサイクルが  
遠心力の働きにより「Lの字」へ変化  
(新興国の資源需要)



# 国内資源循環拡大への転換

「BtoBループ」=「0の字」リサイクルの実現  
求心力のある国内資源循環



# 見直し審議に向けての要望



廃ペットボトルの回収量拡大



引受責任を担える利用事業者の使用量拡大を  
促進できる仕組み作り



今年度、暫定実施された二度入札に関する  
効果の検証と見直し



総合評価制度の検討と導入